

モデル地区における立ち上げ支援

(1) モデル地区における立ち上げ支援の方法

【支援の目的】

- ① プラットフォーム的な協議会組織の設置に向けて、立ち上げ支援内容を検討
- ② ガイドブックの有効性の確認と改善点の抽出
- ③ 下水道の市民科学に取り組む団体において、妨げになる一般的な課題・その解決策
(必要最低限の支援とは何か?)

【モデル地区の活動団体と想定される支援内容】

活動団体	関係自治体	想定される支援内容		
		行政との連携支援	研究テーマの設定支援	資金面の調達支援ほか
横浜市立富岡中学校科学部	横浜市	○	○	○
中部大学の学生グループ（命をつなぐPROJECT学生実行委員会メンバー）	愛知県	○	○	○
九州大学の学生（研究室）	福岡市	○	○	○
岡山理科大学附属高校科学部※	岡山市	-	-	○

※岡山理科大学附属高校科学部は、前回の会議意見を受けて追加

【支援の方法】

- ガイドブックを活用しながら、コーディネーター役となる方への支援を行う。

（活動団体）

横浜市立富岡中学校科学部
 中部大学の学生グループ（命をつなぐプロジェクト学生実行委員グループ）
 九州大学の学生
 岡山理科大学附属高校科学部

（コーディネーター役）

⇒ JAMSTECのOB研究者の加藤氏
 ⇒ 大学の講師などを務める小串氏
 ⇒ 九州大学准教授の清野先生
 ⇒ 科学部顧問の宮内先生

- 支援の方法としては、まず、コーディネーター役との話し合いを行い、想定している研究テーマやスケジュール、取り組みの進め方等を共有する。そして、取り組みを始めるにあたって、どのような問題を感じているのか尋ねることで相談対応を行う。その後も、取り組みの進捗に応じて相談対応を行う。

(2) モデル地区における取り組み状況

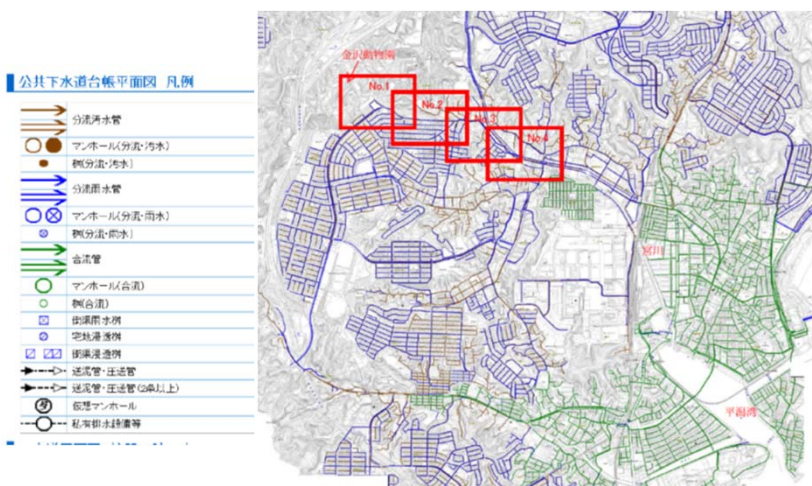
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	備考
当初の想定	活動団体 支援	テーマ設定	情報収集、調査計画内容の検討 関係自治体と調査計画の内容確認	調査実施、結果整理	次年度計画	報告書の作成	進捗に応じた相談対応			
横浜市立富岡中科学部	5～6月:テーマ設定		7月:関係者とミーティング	8月～:下水処理場への見学、情報収集						取り組み推進に向けて想定される支援策 ・川や排水溝のごみについて調べる調査の企画、実施のサポート（調査計画立案サポート）
中部大学の学生グループ			7月:テーマ設定							取り組み推進に向けて想定される支援策 ・ミーティングの開催支援
九州大学の学生			7月:テーマ設定		9月～:情報収集					取り組み推進に向けて想定される支援策 ・試行的な取り組みの支援(調査計画立案サポート)
岡山理科大学附属高校科学部			7月:下水道展のシンポジウム等で発表			10月:助成金へ応募(予定)				

市民科学の調査の実践までには時間を要する（活動団体内で試行的に実施することも必要）
コーディネーター役が活動団体を支援しながら取り組む形は整った。調査計画の立案に向けては、取り組みを推進するためのサポートが必要。

(3) 支援の状況

横浜市立富岡中科学部

- 5月 ・コーディネーター役との事前打合せの実施
テーマやスケジュール等を共有、取り組み上の相談対応
 - 7月 ・関係者ミーティング開催支援
相談できる関係者をつなぐために、関係者(行政、他中学科学部顧問ほか)が参加するミーティング開催 (関係者でテーマを共有)
 - ・コーディネーター役との打ち合わせ
今後の取り組みの進め方について、話し合い
 - ・コーディネーター役への積極的な支援の依頼
 - ・具体的なアプローチ方法の例示
 - 8月 ・情報共有のためのFacebookグループ(非公開)の立ち上げ
・下水道に関連する情報の提供(下図ほか)
- 10・11月(調整中) 調査計画の立案サポート・・・ワークショップ2回の開催



雨水管や雨水枡の配置状況を確認し、地域から海岸までに雨水経路を確認
横浜市だいちゃんまっぷ



Facebookグループ



富岡中科学部

中部大学の学生グループ(命をつなぐプロジェクト学生実行委員グループ)

5月 ・コーディネーター役との事前打合せの実施

テーマやスケジュール等を共有、取り組み上の相談対応

・関係行政(県下水道課)との事前打合せの実施

市民科学の説明・下水道科学館の活用に向けての依頼・テーマの相談

7月 ・関係行政(県下水道課、出先事務所、下水処理場、科学館関係者)

との事前打合せの実施

市民科学の説明・下水道科学館の活用に向けての依頼・テーマの相談

・コーディネーター役との話し合い(下水道展シンポジウム後の交流会)

取り組み上の課題について情報共有

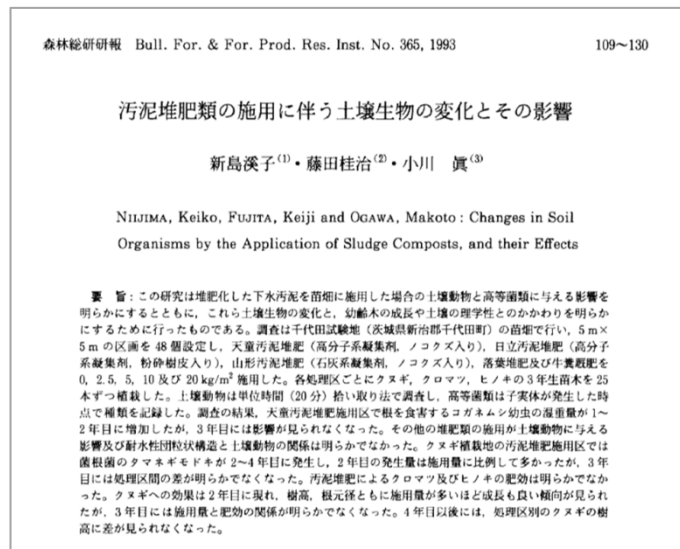
・関連論文の提供(下図ほか)

8月～・立ち上げミーディングの開催に向けて コーディネーター役への状況確認

11・12月～(予定) ミーディングの開催支援



命をつなぐプロジェクト
学生実行委員グループ



下水汚泥を利用したモニタリング調査を行う文献



愛知県下水道科学館



九州大学の学生

- 6月 ・コーディネーター役との事前打合せの実施
テーマやスケジュール等を共有、取り組み上の相談対応
- 9月 ・調査(パックテスト)の指導

10月(調整中) 調査計画の立案サポート・・・処理場見学+現地調査の開催



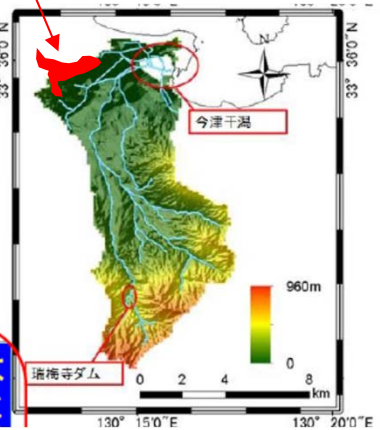
調査計画の立案サポート(現地調査)

- ・今津干潟は福岡市博多湾西部の約114haの瑞梅寺川の河口干潟。
- ・生きている化石、絶滅危惧種カプトガニの産卵地、幼生生息地。



瑞梅寺川

九州大学の伊那キャンパス



カプトガニ生息地保全には「流域全体」の視野が必要

下水道処理区域及び水処理センター



福岡市内の下水処理場



伊都キャンパスは、福岡市西区と糸島市にまたがる東西約2.5km、南北約2.0km、275haの広大な敷地。ここに計画人口約2万人、延べ床面積約50万㎡の施設が計画され、平成30年度までに移転が完了。

岡山理科大学附属高校科学部

7月 ・コーディネーター役との話し合い(下水道展シンポジウム後の交流会)

取り組み上の課題について情報共有

9月 ・助成金制度の紹介 情報提供

近々申し込みが可能な助成金制度、表彰制度

来年申し込みが可能な //

申込書類・過去の応募・活用事例 等

10・11月 申し込みの相談対応、その後のモニタリング

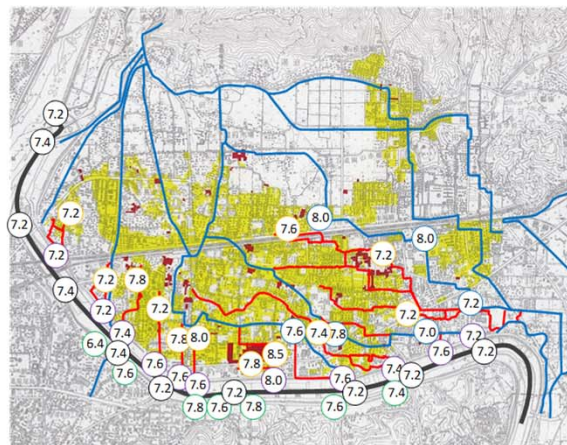
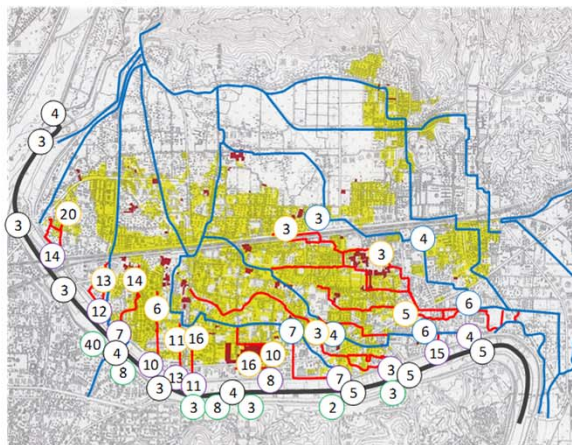


調査結果 — 百間川本流 — 用水路 — 排水路 ○ 百間川本流 ○ 左岸排水樋門 ○ 右岸排水樋門 ○ 用水路 ○ 排水路

COD [mg/L]

調査日: 2018年6月3日(日)

pH



(4) 内在する課題(問題点)

<活動団体>

- ・ 下水道の役割、重要性、可能性、課題等を見える化する研究テーマをイメージできない。
- ・ リーダー(顧問の先生、現役の大学教員)に市民科学の取り組みを優先して進める時間的な余裕がない。
- ・ 活動団体(中学校)が属する組織において、新たな取り組みを阻害するような風土がある。
- ・ 活動資金(調査費、遠征費)のための寄付等を集める仕組みがない。

<自治体>

- ・ 市民科学の相談窓口が明確ではない。
- ・ 市内の市民科学の取り組みをつなぐ仕組みがない。

<コーディネーター役>

- ・ 一段上の視点にたって、「活動団体の取り組みをまとめていく」といったマインド・スキルの向上が必要。
- ・ 下水道に関する知識の向上が必要(既存の学術論文データベースを利用し、検索・複写できるサービスはあるが有料)